三　田 －地名の由来－

地名としての三田には、全国的には「さんだ」のほかに「みた」という読み方があります。ある地名辞典には「さんだ」が６件「みた」が11件掲載されています。ちなみに「さんだ」の表記にはほかに散田が２件、「みた(だ)」には見田・美田・箕田という表記が計９件みられます。その由来を考える場合「みた」が「み」と「た」に分解でき、「み」は御または美という、田を修飾する語であることはほぼ確実と考えられます。一方の「さんだ」は「さん」と「だ」に分けられます。地名ですので、このうち「だ(た)」が文字通り田を意味する可能性はかなり高いと思われます。

現存最古の「三田村」の表記（清水寺文書）

辞典類を調べると、「みた」はかなり古い時代からその名がみえるのに対して、「さんだ」の地名はおおよそ室町時代以降の記録に残るようです。市域の場合も現在のところ寛正（かんしょう）７(1466)年の古文書(市史第３巻口絵１)にみえる三田村が最古で、意外と時代が下ります。この三田村は江戸時代に三田町と南・北・東３つの三田村にわかれます。現存する三田町のほかフラワータウンの三田谷公園の名前もその名残です。本来の三田村の範囲は、ほぼ市史第６巻の口絵５の絵図の範囲と考えられます。またその読み方は、江戸時代初期の時点で「さんだ」と読まれていたことも確認できます。

わがまち三田の由来については、三田地区の金心寺（こんしんじ）に伝わる弥勒菩薩坐像（みろくぼさつざぞう）(市史別編２の36号)にまつわる恩田（おんでん）・悲田（ひでん）・敬田（けいでん）の三福田（さんぷくでん）に由来するという有名な説があります。このように仏教語などに用いられる田の音（おん）は「デン」であるのに対して、「た(だ)」は日本固有の読み方です。一方の「サン」は、可能性としては数字を示すか、他の言葉の音にあてたかのどちらかだと考えられます。数字とするならば音読みの「サン」と日本固有の訓である「た」の組み合わせは異例と言えます。この様な場合は三ノ宮のように、本来は名詞の前に「の」を置きます。それでは「サン」は別の意味の言葉の音に対するあて字なのでしょうか。

三田は左右対称・全部で８画の大変親しみやすい地名ですが、その意味を探るのは意外と難しいようです。

生涯学習支援課 市史編さん担当